

平成二十年寒狭峡ウオーキング作品

短歌

暖かな陽の光さす長い道父と母と私と歩く

緑が丘 市村 文

孫を誘いコースも長き寒狭峡苦しみ多きは思い出となる

八束穂 伊藤富男

色づきし里山に来て思いたり若葉も見たい寒狭峡かな

豊橋 今寺勝朗

山里を歩き寒狭峡樂しみてあとは御園の花祭りみる

豊橋 今寺良子

夜なべして明日の昼げの支度せし花の本の母と妻の尊し

緑が丘 大谷将夫

花の舞御園よりきてにぎわいぬ寒狭峡ラリーの樂しき一日

豊川 大川孝吉

強者が鳴る子くぐりし牛渕は往時の姿今に映せり

出沢 竹川義和

さわやかな秋風の吹く寒狭峡猪の匂いに疲れ忘れる

平井 沢田隆昭

汗かきて歩いていけばありがたし道ぞいの遺跡と人よみがえる

川田 中村笑子

ウオーキング多数の人のお参りで強右衛門さま驚きにけり

川田 中村文穂

うす色の霞流れる稜線に笛の音きこゆあきの午後かな

名古屋 新美路乃

寒狭峡ウオークラリーも良いけれど猪焼肉のうまさ格別

横川 早川 弘

観客のみつめる中を鬼は舞うテホへテホへと華やき見ゆる

緑が丘 原 和代

空高く小春日和のウオーキングシューズも歌う若鮎のむれ

川路 原田きみ代

ウオークの後で安らぐ花祭り心の和む秋のひととき

横川 山口和男

「鳥居様」と崇め親しむ幼な日の思い顕ち来る額づく墓前

横川 山田君枝

### 俳句

秋日和まわりを見れば色がわり

有海 赤川実穂

初めての花祭りにひかれウオーキング

緑が丘 市村照代

山里に伝わる文化花祭り

豊川 稲垣政吉

天正の戦場(いくさば)跡も秋の色

大海 今泉 伝

しのびよる老いに打ち勝つ花まつり

市場台 上西 寛

山里を歩いて知ったはなまつり

出沢 内田 忍

渚だまり落葉あつめて寒狭川

豊川 岡村 岩雄

寒狭峡秋の陽あびて歩くかな

浜松 小川 嘉彦

歩きみて歴史の数々思うかな

川田 北原 卓

秋深し民話の里の花祭り

浅谷 熊谷 照代

猪肉の匂いに誘われ花祭り

横川 佐々本正浩

花祭り素敵な舞で魅了する

横川 佐々本美紀

野いちごが山にいっぱいありました

横川 佐々本香奈実

渡る鳥音空高く鳶ヶ巣山

横川 鈴木 洋志

横川で初めて見たよ花祭り

横川 鈴木 久美

かまきりといっしよに歩いた寒狭峡

横川 鈴木 紫陽

秋日和みんな楽しく寒狭峡

豊川 高橋 進

紅葉の孝太郎の里鬼が舞う

横川 滝川 巖

神鬼奥山出でて舞いにけり  
 秋風と歩いて逃った寒狭峡  
 秋晴れに旧友と語らい山道歩く  
 寒狭川歩く小路や柿紅葉  
 片葉葎いにしえ人の忘れもの  
 花祭りこだま流れる寒狭川  
 山の中どうぶつたちと歌うたう  
 山間に神樂響ける花祭り  
 自然があるたくさんあるよ美しい  
 秋空の山道歩いて豚汁だ  
 テホへテホへ曲軽やかに花祭り  
 弾む舞来世の幸を花祭り  
 爽やかなウオーキングで健康に  
 山は紅葉妻と語りつ横川へ  
 花祭り歴史の重み今に見ゆ  
 冬いちご見つけてうれし食べてみる  
 シシ肉にそそれ忘暮ウオーキング  
 足痛いしし肉うまい寒狭川  
 ウオーキングみんな笑顔の秋の空  
 初参加楽しかったよありがとう  
 なつかしき子供にもどる通学路  
 民具見て昔をしのぶ医王寺(いおうでら)  
 強右衛門わが城に帰るはどこからか

豊川	竹本	漢子
緑が丘	田中	博久
豊川	辻	秀雄
豊橋	中神	二郎
豊橋	中神	牧子
稲本	南林	茂
名古屋	新美	皓平
幸田	野沢	忠勝
横川	早川	真唯
横川	早川	千恵子
緑が丘	原	克彦
富栄	原田	和吉
竹ノ輪	馬場	よね子
富沢	福田	章
富沢	福田	妙子
田原	本多	直巳
田原	本多	真理子
竹広	村田	信義
豊橋	八木	哲也
豊橋	八木	あずさ
横川	山口	みはる
所並	山崎	信久
市場台	山田	展章